



▲「よいしょ、よいしょ」と力を合わせて収穫したジャガイモを運ぶ児童たち。重くて大変だけど、予想以上の大収穫に思わずほおが緩みます



▲「おいしい」「いい香りだね」。学校農園で栽培したミニトマトをほお張る児童たち。ジャガイモ掘りの後に食べる味は格別なようです



▲「急いでいるときは、このジャガイモの味を思い出してください。ぼくたちも交通事故に遭わないように気を付けます」。そんな願いを込めて手渡します

です。
この日収穫するジャガイモは、五月に児童自らが植えたもの。「うまく育ってくれたかな」と児童たちは期待と不安の入り混じった複雑な表情を浮かべながら土を掘り起こし始めます。

下級生は、おぼつかない手付きながらも、上級生のやり方をまねて一生懸命に両手を動かします。上級生も力の弱い下級生を手伝ったり、掘り方のコツを教えたりするなどリーダーシップを発揮。しばらくすると、農園のあちこちから子供たちの歓声が上がりました。「あつたー」「ここに

にも、あそこにもあるよ！」形や大きさはさまざまですが、土の中にはおいしそうなジャガイモが確かに実っていました。児童たちは、土がいつぱい付いたジャガイモを手に取り、大はしゃぎです。中には「白くて丸いのは『男爵』、赤いのは『キタアカリ』だよ」とジャガイモの種類を下級生に教える上級生や、どちらのイモが大きいかを競い合う児童たちの姿もあります。そんな児童たちの様子を温かく見つめるのは同小の照井勝美校長です。

届け、私たちの願い

九月二十七日、同小の通学路となっている国道230号沿いで、交通安全を呼び掛ける街頭PRが行われました。参加者は、同小の全校児童のほか地域の交通安全団体のメンバーなど約百二十人です。

街頭PRが始まると、沿道には「交通安全お願いします」という児童たちの元気い

つぱいの掛け声がかまします。児童たちは、丹精込めて育てたジャガイモをビニール袋に詰め「スピードの出し過ぎに気を付けてください」などと書いた手紙を添えて運転者や同乗者にプレゼント。袋詰めには、朝早くから地域の老人クラブのメンバーもお手伝いしているそうです。

思わぬプレゼントを受けたった運転者たちは、驚きながらも、すぐに「どうもありがとう」「注意して運転するよ」と笑顔で応えます。

児童会長の本間唯さん(六年)は「私たちが育てた野菜



▲丸々と実ったキタアカリ。夏には赤紫色の花が児童たちの目を楽しませてくれました

